

# 人々の河川水辺のとらえ方

—河川水辺と公園に関するインターネット・アンケートから—



環境研究部 河川環境研究室 研究員 藤井 都弥子

主任研究官 伊藤 弘之 室長 藤田 光一

## 1. はじめに

河川水辺の整備をさらに進め、それが持ちうる効用を最大限活かすためには、親水や教育に関するニーズ把握というような実務的調査に加えて、そもそも人間にとって河川水辺がどのような意味を持つのか、河川水辺が人間にどのような影響を与えるのかという基本的知見を得ることも重要である。このような観点からの研究としては、医療における河川水辺の効用に着目した研究<sup>1)</sup>や河川水辺に対する身体的応答に関する研究<sup>2)</sup>があるが、具体的水辺整備に生かすには、さらに知見を広げていく必要がある。

本研究では、川と直接ふれあうことが人にどのような影響と意味を持つかを多面的に明らかにすることを最終的な目標に据え、まず、アンケートという手段により、河川水辺に対する人々のとらえ方を把握しようと試みた。

## 2. アンケートで工夫したこと

アンケート調査は、サンプリングの性格に関する厳密さに欠けるものの、短期間に容易に不特定多数の回答が得られるという長所を重視して、インターネットを用いた。また、河川水辺とともに公園に関しても質問を設定し、公園との比較から、水辺固有の特徴を把握できるようにした。さらに、現在の認識、行動だけでなくなぜそのような認識、行動を持つようになったかについても検討を行うため、過去から現在に至る川辺とのかかわりに関する質問も加えた。

2004年3月24日までの2週間のアンケート期間に、46都道府県の居住者から440の有効回答を得た。以下に、アンケート結果の分析を示す。

## 3. 川辺に対するイメージ

人が川辺に対して持っているイメージについてSD法\*により調査した結果を図-1に示す。川辺は公園と比較して「静かな」「落ち着きのある」「自然な」というイメージが強いことが分かる。さらに川

辺に対するイメージについて世代別に見ると、若い世代ほどこうしたイメージが強い傾向が見られた(図-2)。

「連想するもの」の回答は、川辺については「釣り」「魚」「鳥」「草花」「石」「散歩・散歩道」が多かった。公園については「子供」「遊具(ブランコ、すべり台など個別の遊具を答えたものも含む)」に回答が集中する傾向が見られた。

川辺に対する思い出の有無を世代別にあらわしたものを図-3に示す。川辺では世代が上がるにつれて「よい思い出がある」割合が高く、若い世代ほど「特に思い出はない」割合が高いという傾向が見られた。

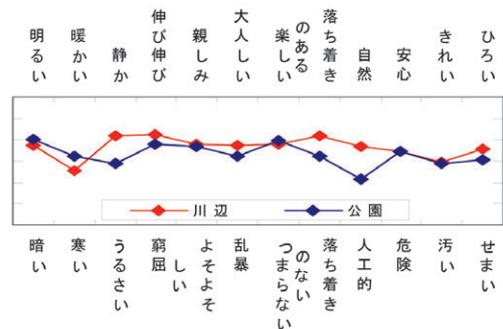


図-1 川辺・公園に対するイメージ

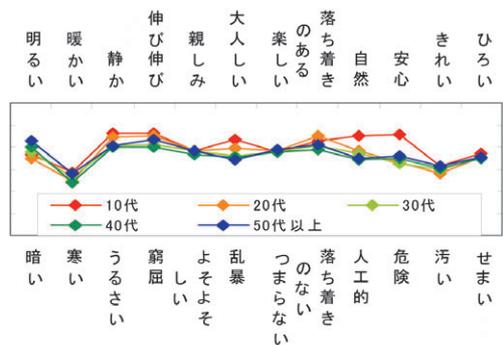


図-2 世代による川辺に対するイメージの違い

\* SD法: ある対象物に対するイメージについて、意味的に対となる形容詞を両極とする評定尺度を用いて評価を行う方法。

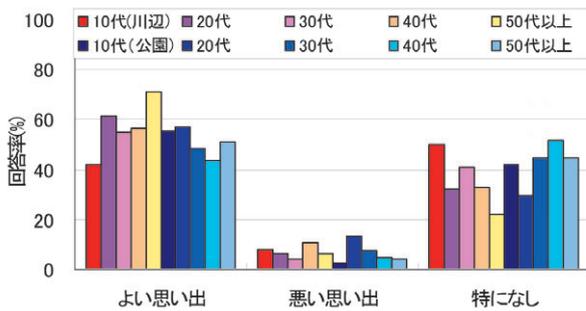


図-3 川辺・公園における思い出の有無（世代別）

こうした結果から、川辺は公園よりも静かで落ち着きがあり、自然豊かで多様なイメージを持つ空間と捉えられているといえる。また、世代によりイメージや思い出の有無に違いが見られることから、上の世代は、昔の川辺と比較して、あるいは昔の川辺での体験を通して川辺を捉えているのに対し、若い世代では、人工化された都市空間と比較して川辺は静かで自然豊かな場所だと捉えているのではないかと考えられる。

#### 4. 川辺へのふれあい方とその理由

現在川辺へ行く頻度について、世代別の傾向を図-4に示す。世代が上がるにつれて川辺へ行く頻度が高くなり、逆に若い世代ほど「ほとんど行かない」人の割合が高くなる傾向が見られた。一方公園については、10代で行く頻度が低いが、20代以上では月数回行く割合がほぼ同じであった（約40%）。

川辺へ行く目的について、世代別の傾向を図-5に示す。10代だけが「憩い・くつろぎ」の割合が低かったほか、若い世代ほど「遊び」の割合が高く、逆に世代が上がるにつれて「健康づくり」の割合が高くなった。さらに具体的な目的に関する記述回答を見ると、「散歩」は川辺・公園ともに多かったが、川辺は公園と比較して「リラックスするために行く」「癒されに行く」といった回答が多く、公園は「子

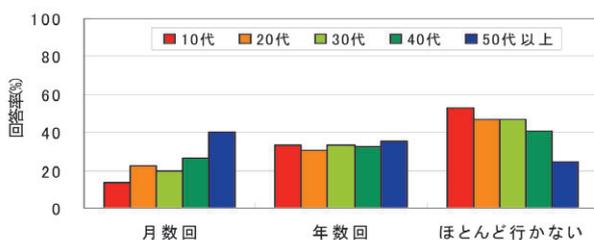


図-4 世代による川辺へ行く頻度の違い

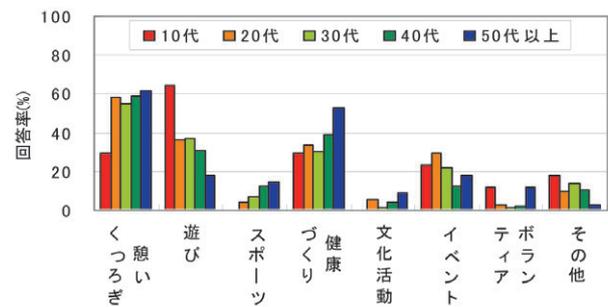


図-5 世代による川辺へ行く目的の違い

供と遊ぶ」という回答が多く見られた。

川辺へ行かない理由について、図-6に示す。公園と比較して、「近くにない」「汚い」「危険」の割合が高い点が川辺の特徴といえる。行かない理由について世代による違いは見られなかった。

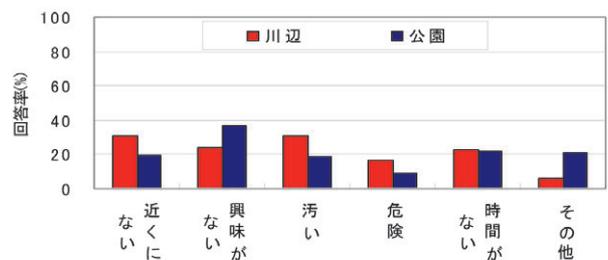


図-6 川辺・公園へ行かない理由

#### 5. まとめと今後の展開

アンケート調査により、人が河川水辺を公園よりも静かで落ち着きのある空間と捉えていることや、憩いや癒しなどの目的で活用していることが明らかとなり、河川水辺に対するイメージと実際のふれあいとの関係について把握することができた。

今後は、人が川辺へ行ったときに川辺から受ける効果について把握するために、現地において脳波や血圧等生理的項目の直接計測、および聞き取りによる心理的項目の調査を行い、川辺の特性との関係について検討を行う予定である。

#### 【参考文献】

- 1) 例えば 子吉川・癒しの川制作実行委員会編：癒しの川，2003
- 2) 例えば 木内，小林：屋外空間における快適性と脳波の関連について，土木学会論文集 No. 629，1999